

言語聴覚士の養成における大学院教育の実情について

一般社団法人日本言語聴覚士協会 深浦順一

HP 記載内容から集計した。

1. 文部科学省管轄言語聴覚士養成校（大学） 29 校（国際医療福祉大学は 3 キャンパスが登録されており 1 校とした。）
2. 大学院設置校 13 校（修士 13、博士 9）
3. 就業年数 修士 2 年、博士 3 年（長期履修可と記載ある大学院あり）
4. 定員 言語聴覚障害領域単独の記載はない
5. 履修科目は大学院教育に特化した科目であり、国家試験受験資格に資する科目は開講されていない。

6. 大学院での言語聴覚士国家試験受験資格取得可能と記載されている例

1) A 大学 人間学専攻言語聴覚コース修士

- ・言語聴覚士の国家資格の取得に専念したい場合→ **言語聴覚士養成課程（専攻科）**
- ・研究テーマがあるので、言語聴覚士の国家資格の取得に加え、修士の学位も取得したい、あるいは言語聴覚士として働いているが、2 年かけてじっくり修士の学位を取得したい場合→ **大学院 言語聴覚コース（2 年制）**
- ・言語聴覚士として 3 年以上の実務経験を有しており、短期間で修士の学位を取得したい場合 → **大学院 言語聴覚コース（1 年制）**

2) B 大学（学部言語聴覚学専攻は募集停止）

大学院（2 年） 摂食嚥下障害コース、高次脳機能障害コース、言語聴覚障害コース

「言語聴覚障害コースは、言語や聴覚、高次脳機能、発達の障害をもつ対象児・者を支援するため、専門的知識、技能、援助方法を学び、コミュニケーションを支援できる人材を養います。指定された科目（大学院の修了に必要な科目ではございません）を履修した場合は、修了時に言語聴覚士の受験資格も取得することができます。

言語聴覚士国家試験受験のためには履修科目数が多くなりますので、長期履修制度を活用することをすすめています。」

3) C 大学（上記 29 校には含まれない）

修業年数 2 年半

履修科目

実習を除いて約 80 単位。

国家試験受験時に、告示の指定科目との整合性を大学院で確認している。（PMET に履修見込証明書も提出）

実習：学内および学外 2 施設を合わせて約 500 時間